

2011アンケート

《趣旨》

今回のアンケート調査では前回の長期処方に関する追跡調査を含めて残薬調整に関する意識調査を弘前調剤センターにおいて行いました。

《総括》

日数調整をしている方が多く見られましたが、中には残ったお薬を2週間手元に持っていて、受診して薬が変更になっても前の薬が無くなってから飲んでいるという方がおりました。残薬調整について困ったことがあると答えた方が前回は高齢者が多かったのですが、今回は30代から40代が多く、その中でも精神科受診の方が5名という結果となり、更には14日から28日処方の方で、今以上の長期処方を望んでいない方に限定されていました。特に神経科は08年度から薬剤の日数規制緩和(眠剤)が大きく影響し、処方の長期化が顕著に現われているのが現状です。

また、薬の副作用という点で調査を行いましたが、平均処方日数は22日、その後の対応は服用を中止しドクターに相談している方が多くみられましたが、「薬局・薬剤師に相談した」が1件のみという結果になりました。

お薬手帳に関する啓蒙活動はまだまだ必要だと感じました。2年前の調剤報酬改定では後期高齢者医療制度加入者にはお薬手帳の発行が義務づけられ(2010年改定では削除)多くの方に発行されましたが、何のために持たせられているのか、どのように活用すればいいのか理解が出来ておらず、調査時にアドバイスをさせていただいたケースが多かったです。また、この設問により今までお薬手帳を持っていない又はお薬手帳を知らないという方にも必要性を訴えることができました。ジェネリック医薬品については関心が高く、国は使用促進を進めているもののまだまだ患者様は情報提供を望んでいることも明確となりました。今後は講師活動等を通じて情報提供を行っていきたいと思います。

当薬局への意見に関しましては、待ち時間に関する意見や薬袋に関する意見、OTCについての意見等を頂戴致しました。今後当委員会にて頂いた意見を検討し、より良い患者サービスへつなげて参りたいと思います。